

科目名 (英)	介護総合演習Ⅱ(集中)	必修 選択	必須	年次	2年次	担当教員	保住・内藤・高橋・田村
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	演習	総単位 時間	30単位	開講区分 曜日・時間	後期 集中
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士として就業した専任教員として、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
実習Ⅱの事前・実習中・事後の学習を通して、実習の目的理解、実習記録システムの活用、個人情報保護と記録物管理、アセスメント対象利用者の選定、情報収集、アセスメント、介護計画の立案、実践の評価・修正、実習報告会での発表を行う。							
【到達目標】							
実習Ⅱに向けて、実習の目的・目標、個人情報保護、記録管理、実習生としての規律を理解し、実習中に利用者の生活・身体・心理・環境に関する情報を収集・整理し、アセスメントに基づいた介護計画の立案・実践・評価・修正を行い、その根拠を記録および報告で説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
実習と記録 介護福祉士編 一般財団法人滋慶教育科学研究所 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)				実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。			
1	【到達目標】 実習Ⅱの目的を理解し、実習参加に必要な知識を確認できる。	【授業内容】 実習Ⅱの目的・目標、実習前試験、自己課題の確認	9	【到達目標】 介護計画の実践状況を振り返り、評価・修正の視点を整理できる。	【授業内容】 巡回指導②:介護計画の実践・評価・修正の個別指導		
2	【到達目標】 実習記録システムと実習ルールを理解し、守るべき事項を説明できる。	【授業内容】 富士フィルムシステム、学生用要項、個人情報保護の確認	10	【到達目標】 実習全体を振り返り、自己の学びを整理できる。	【授業内容】 実習後教育①:実習の振り返り		
3	【到達目標】 アセスメント対象利用者を選定し、情報収集の方向性を説明できる。	【授業内容】 帰校日①:対象利用者の選定と情報収集状況の確認	11	【到達目標】 介護過程の流れに沿って実習内容を整理できる。	【授業内容】 実習後教育②:介護過程の整理		
4	【到達目標】 実習状況を振り返り、記録・情報収集の課題を整理できる。	【授業内容】 巡回指導①:実習状況・記録・対象利用者選定の個別指導	12	【到達目標】 実習での学びを報告会資料にまとめることができる。	【授業内容】 実習後教育③:報告会資料作成		
5	【到達目標】 収集した情報を事実と解釈に分けて整理できる。	【授業内容】 帰校日②:収集情報の整理	13	【到達目標】 発表練習と質疑応答を通して報告内容を修正できる。	【授業内容】 実習後教育④:発表練習・修正		
6	【到達目標】 利用者情報をもとにアセスメントを作成できる。	【授業内容】 帰校日③:アセスメント作成	14	【到達目標】 実習成果を根拠とともに発表できる。	【授業内容】 実習後教育⑤:実習報告会		
7	【到達目標】 利用者の強み・希望・課題を踏まえて支援課題を明確にできる。	【授業内容】 帰校日④:支援課題の明確化	15	【到達目標】 実習Ⅱの学びを総括し、今後の課題を明確にできる。	【授業内容】 実習後教育⑥:総括と今後の課題整理		
8	【到達目標】 アセスメントに基づいた介護計画を立案できる。	【授業内容】 帰校日⑤:介護計画の立案		【評価について】			
【特記事項】				筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			

科目名 (英)	介護総合演習Ⅰ(集中)	必修 選択	必須	年次	1年次	担当教員	保住・内藤・高橋・田村
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	演習	総単位 時間	30単位	開講区分 曜日・時間	後期 集中
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 介護福祉士として就業した専任教員として、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 利用者の生活を観察し、事実を記録・整理しながら、利用者理解を深め、支援の方向性を説明できる。							
【到達目標】 短期実習と中期実習を通して、施設理解、生活観察、記録、利用者理解、支援の方向性、実習総括を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
1	【到達目標】 実習の目的と基本姿勢を理解できる 【授業内容】 実習Ⅰの目的、実習ルール、記録方法の確認			9	【到達目標】 支援の方向性を根拠とともに説明できる 【授業内容】 11月実習の振り返り、支援方向の整理		
2	【到達目標】 施設の役割と利用者理解の視点を持てる 【授業内容】 施設理解、利用開始までの経緯を知る視点			10	【到達目標】 中期実習の目的とアセスメント視点を理解できる 【授業内容】 中期実習の目的、情報収集と整理の確認		
3	【到達目標】 3日間の実習を振り返り、気づきを整理できる 【授業内容】 8月実習の振り返り、事実記録と気づきの整理			11	【到達目標】 収集情報を整理し、見立ての課題を確認できる 【授業内容】 帰校日指導、情報整理と見立ての確認		
4	【到達目標】 生活歴や生活リズムを観察する視点を持てる 【授業内容】 生活歴、価値観、生活リズムの観察視点			12	【到達目標】 実習状況を振り返り、学習課題を修正できる 【授業内容】 巡回指導、実習状況と記録の個別確認		
5	【到達目標】 利用者の生活の特徴を事実に基づき説明できる 【授業内容】 9月実習の振り返り、生活理解の整理			13	【到達目標】 中期実習を振り返り、利用者理解を整理できる 【授業内容】 中期実習の振り返り、利用者理解の整理		
6	【到達目標】 観察した事実を意味づける視点を持てる 【授業内容】 観察事実の整理と意味づけの方法			14	【到達目標】 実習での学びを発表資料にまとめられる 【授業内容】 実習総括発表の資料作成と発表準備		
7	【到達目標】 観察から利用者理解を深めて説明できる 【授業内容】 10月実習の振り返り、根拠ある理解の整理			15	【到達目標】 実習の学びと今後の課題を発表できる 【授業内容】 実習総括発表、実習Ⅰの学びと課題整理		
8	【到達目標】 望む生活に沿う支援を考える視点を持てる 【授業内容】 望む生活、支援の方向性を考える視点			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	人間の尊厳と自立 Comprehension of Human	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	黒澤 芳恵
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、介護福祉職としての本質や倫理観を学ぶ基礎的な科目であり、利用者や家族等に対して多面的に理解を深める重要性について考えながら受講してほしい。福祉理念を理解し、人権尊重や権利擁護の考え方を養うとともに、利用者の尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。講義での学びとともに個人ワークやグループワーク等でアウトプットする機会をつくる授業を行う。一人ひとりが考え、また互いに意見を交わしながら理解を深めてほしい。							
【到達目標】 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を説明できる。 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「見て覚える！介護福祉士 国試ナビ2026」中央法規				【授業外における学習】 授業後にノートやプリントを振り返る等の復習をし、学んだことを確認しましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 前期の授業の進め方、評価の方法を理解する。 【授業内容】 オリエンテーション			9	【到達目標】 介護を必要とする人の生活と人権について理解できる。 【授業内容】 介護における権利擁護と人権尊重		
2	【到達目標】 人間を理解することの意義について理解できる。 利用者主体の考え方とその実現に必要な要素を理解できる。 【授業内容】 人間の尊厳の意義			10	【到達目標】 権利侵害(消費被害、ハンセン病など)の実例や実態とその防止について理解できる。 【授業内容】 権利侵害の実例①		
3	【到達目標】 世界や日本の人権思想の歴史的展開を理解できる。 【授業内容】 世界と日本の人権思想の歴史的展開			11	【到達目標】 権利侵害(高齢者虐待など)の実例や実態とその防止について理解できる。 【授業内容】 権利侵害の実例②		
4	【到達目標】 戦前から戦後、現代までの人権や福祉理念の変遷について理解し、介護福祉士としての倫理観との関連を考えることができる。 【授業内容】 福祉理念の変遷 介護福祉士の倫理観			12	【到達目標】 自立の概念の多様性を学び、自立とはどのような状態をいうのか表現することができる。 【授業内容】 自立の考え方		
5	【到達目標】 現代社会が抱えるさまざまな人権に関する課題を理解できる。 より人間らしく生きることの意義を考えることができる。 【授業内容】 福祉課題の変遷			13	【到達目標】 介護を必要とする人の自立と自立支援について理解できる。 【授業内容】 介護における自立支援の理論①		
6	【到達目標】 現代における介護、福祉の分野での新たな福祉理念について理解できる。 【授業内容】 現代の福祉理念			14	【到達目標】 自立した生活を支えるための視点について理解できる。 【授業内容】 介護における自立支援の理論②		
7	【到達目標】 社会福祉活動の歴史と背景を理解できる。 さまざまな社会福祉活動家とその活動内容について理解できる。 【授業内容】 社会福祉活動の歴史的経緯、意義、活動家について			15	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。 【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、前期試験、解答解説		
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。 【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 毎授業において、板書したことやパワーポイント等を必ず記録しましょう。 事例検討や演習等では、自分の意見の表明や他者への理解をお願いします。							

科目名 (英)	社会の理解 Comprehension of social system	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	黒澤 芳恵
	学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は高齢者や障害者の生活全般を支援する諸制度について学ぶ科目であり、利用者の生活を支えていくという観点から、必要な知識を身につけることを目的とした授業を行う。講義での学びとともに個人ワークやグループワーク等でアウトプットする機会をつくり、知識や記憶の定着を図る学習をする。利用者を取り巻く環境や社会背景、日本の社会保障の考え方やしくみ、介護実践に必要な制度・施策等について理解を深めてほしい。講義や演習を通して一人ひとりが考え、それぞれの法制度について実践の場で通用する知識として身につけてほしい。							
【到達目標】 個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造についてを学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。 日本の社会保障制度の基本的な考え方やしくみ、歴史や変遷について理解するとともに、社会保障制度の現状と課題等を学ぶことができる。 高齢者に関する福祉制度の基本的な考え方やしくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題等を学ぶことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「見て覚える！介護福祉士 国試ナビ2026」中央法規				【授業外における学習】 国試ナビの次の範囲を読み、予習をしましょう。また授業後もノートやプリントを振り返るなどの復習をし、学んだ内容を身につけましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 前期の授業の進め方について理解する。 【授業内容】 オリエンテーション			9	【到達目標】 介護サービス利用までの過程について理解できる。 【授業内容】 介護保険制度② 介護保険制度の利用までの過程		
2	【到達目標】 家族、地域社会の集団や組織について学び、利用者とのかかわりについて理解できる。 【授業内容】 家族の概念、構造、役割			10	【到達目標】 介護保険給付の種類について理解できる。 各介護保険サービスの内容について理解し、述べることができる。 【授業内容】 介護保険制度③ 介護保険制度の保険給付、介護保険サービス		
3	【到達目標】 地域福祉の理念や推進することの重要性を認識できる。 地域共生社会、地域包括ケアの理念や取り組みを理解できる。 【授業内容】 地域共生社会の実現に向けた制度や施策			11	【到達目標】 介護保険制度における利用者負担のしくみや軽減措置について理解できる。 【授業内容】 介護保険制度④ 介護保険制度の利用者負担		
4	【到達目標】 社会保障制度の基本的な考え方を理解できる。 社会保障制度の目的、機能、範囲や種類を説明できる。 【授業内容】 社会保障制度の概念、機能、体系など			12	【到達目標】 介護保険制度の介護保険料の内容を理解できる。 【授業内容】 介護保険制度⑤ 介護保険制度における保険料、財源のしくみ		
5	【到達目標】 戦後から現代に至るまでの社会保障制度の歴史を整理できる。 近年行われている社会保障改革の方向性を理解できる。 【授業内容】 日本の社会保障制度の発達と歴史			13	【到達目標】 地域支援事業について種類、内容を理解できる。 介護保険制度に関わる各組織の種類と役割について説明できる。 【授業内容】 介護保険制度⑥ 介護保険制度における地域支援事業 公的、民間組織の種類と役割		
6	【到達目標】 日本の社会保障制度のしくみを理解できる。 【授業内容】 社会保障の実施体制、しくみ(実施方式、給付、負担の方法など) 社会保障給付費の推移と現状、社会保障全体の課題など			14	【到達目標】 介護保険制度にかかわる専門職の役割について理解する。 介護保険制度改正の流れと動向について整理することができる。 【授業内容】 介護保険制度⑦ 介護保険制度における専門職の役割 介護保険制度の改正のまとめ		
7	【到達目標】 高齢者保健福祉の歴史、課題、法体系について理解できる。 【授業内容】 高齢者保健福祉の動向 高齢者保健福祉に関連する法体系			15	【到達目標】 後期の授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。 【授業内容】 後期試験、解答解説、授業の振り返り		
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、学習を深め、問題に答える。 介護保険制度創設までの過程、目的、理念等を理解できる。 【授業内容】 中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 知識を積み重ねていくことが重要な科目です。小さな疑問でも早めに解消できるよう、どんなことでも質問してください。							

科目名 (英)	Relationships and Communication	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	西館 遼		
	人間関係とコミュニケーション	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 2限		
学科・コース	介護福祉士科								
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)									
特別養護老人ホームにて介護職員として働き、役職者としての経験									
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)									
介護職による支援は利用者と多職種との関係づくりから始まります。上記の実務経験を活かし、ここでは人間を多面的に理解することを基盤に、他者との関係づくりのために必要なコミュニケーションや、介護実践におけるチームマネジメントについて学びます。									
【到達目標】									
コミュニケーションについて知識と理解を深め、利用者に対してあるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力やチームマネジメントを学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】				
「介護福祉士国家試験ワークブック上」中央法規 「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」中央法規					聞きなれない用語等は予習をし、授業後は配布資料をもとに復習を行う。				
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要				
1	【到達目標】 お互いの自己紹介を行いコミュニケーションを図る 介護とは人間らしさの象徴であることを理解する 【授業内容】 ・オリエンテーション ・人間らしさのはじまり			9	【到達目標】 人間関係の発展や後退とコミュニケーションのあり方について学ぶ 【授業内容】 ・対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション				
2	【到達目標】 人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ 【授業内容】 ・自分を形成する2つの要素 ・自分を理解するとは			10	【到達目標】 対人援助を展開していくための援助的人間関係を形成していく基本を学ぶ 【授業内容】 ・対人援助における基本的態度				
3	【到達目標】 人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ 【授業内容】 ・他者を理解するとは			11	【到達目標】 介護福祉士が援助関係を形成していく際の基本的な方法について学ぶ 【授業内容】 ・援助的人間関係の形成とバISTECKの7つの原則				
4	【到達目標】 人の発達にともなう、人間関係の広がりを学ぶ 人はどのように他者や集団と関わりながら成長するのかを学ぶ 【授業内容】 ・発達心理学や社会心理学からみた人間関係			12	【到達目標】 組織の存在とコミュニケーションの特徴や組織における情報の流れを理解する 【授業内容】 ・組織の条件とコミュニケーションの特徴 ・組織における情報の流れ				
5	【到達目標】 人間関係の形成や発展におけるストレスについて学び、適切に対処する方法を身につける 【授業内容】 ・人間関係とストレス			13	【到達目標】 組織においてどのようなコミュニケーションが求められるかを学ぶ 【授業内容】 組織において求められるコミュニケーション				
6	【到達目標】 ・コミュニケーションの特性や構造について学ぶ 【授業内容】 ・コミュニケーションの概念と基本構造			14	【到達目標】 組織とそこでのコミュニケーションの特徴について考える アイデアを出し合うためにブレインストーミングを体験する 【授業内容】 組織のコミュニケーションについてーブレインストーミング				
7	【到達目標】 言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションについて学ぶ 【授業内容】 ・コミュニケーションの手段			15	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、期末試験、解答解説				
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。 分からない問題を洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価					
【特記事項】 重要なポイントは必ずメモをとること。 配布資料を振り返りに活用すること。									

科目名 (英)	職業人教育 Professional Training Lecture	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	保住 恵理
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 木曜 4 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
"職業人教育"とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』・『気構え』・『心構え』を学ぶ。							
【到達目標】							
①社会人として求められる立ち振る舞い(挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理)について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。 ②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。 ③学生生活のスケジュール管理を自らできるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
① 4/16	【到達目標】 ・介護福祉士科の2年生と交流し、今後も交流できるようにコミュニケーションを図ることができる。 【授業内容】 ・新入生歓迎会			⑨ 6/11	【到達目標】 ・おはなしカフェに向けて準備をすることができる。 【授業内容】 ・各チームに分かれておはなしカフェの準備をする。		
② 4/23	【到達目標】 ・おはなしカフェシミュレーションに参加し、本番までの動きを確認することができる。 ・Or目標作成 【授業内容】 ・おはなしカフェシミュレーションに参加			⑩ 6/18	【到達目標】 ・次週の本番に向けて、おはなしカフェのシミュレーションを実施し本番に向けて最終調整をすることができる。 【授業内容】		
③ 4/30	【到達目標】 ・おはなしカフェ本番に参加し、当日の動きを確認することができる。 Or委員会の役割決め 【授業内容】 ・2年生のおはなしカフェ本番を確認			⑪ 6/25	【到達目標】 ・おはなしカフェを実施し、参加者様に満足して頂けるような運営をすることができる。 【授業内容】		
④ 5/7	【到達目標】 ・2年生からおはなしカフェの引継ぎを受け、自分たちで次どうするか考えることができる。 【授業内容】 ・2年生からおはなしカフェ引継ぎ			⑫ 7/2	【到達目標】 ・次回の本番に向けて、前回のおはなしカフェを振り返り準備をすることができる。 【授業内容】 ・前回の振り返り ・次回に向けて準備		
⑤ 5/14	【到達目標】 7つの習慣 年間スケジュール確認 【授業内容】			⑬ 7/9	【到達目標】 ・次週の本番に向けて、おはなしカフェのシミュレーションを実施し本番に向けて最終調整をすることができる。 【授業内容】		
⑥ 5/21	【到達目標】 7つの習慣 年間スケジュール確認 【授業内容】			⑭ 7/16	【到達目標】 ・おはなしカフェを実施し、参加者様に満足して頂けるような運営をすることができる。 【授業内容】		
⑦ 5/28	【到達目標】 7つの習慣 年間スケジュール確認 【授業内容】 ・おはなしカフェグループ発表			⑮ 7/23	【到達目標】 定期試験を実施し、前期を振り返ることで、成長した部分に気付くことができる。 【授業内容】 ・定期試験実施 ・実習に向けて		
⑧ 6/4	【到達目標】 ・中間試験を実施し、第1回目～第7回目まで学んだことを振り返ることができる。 【授業内容】 ・中間試験の実施(1～7回目までの振り返り) ・おはなしカフェについて			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	職業人教育 Professional Training Lecture	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	保住 恵理
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 木曜 4 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
"職業人教育"とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』『気構え』『心構え』を学ぶ。							
【到達目標】							
① 社会人として求められる立ち振る舞い(挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理)について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。 ② 振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。 ③ 学生生活のスケジュール管理を自らできるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
①	【到達目標】 ・後期の流れを確認し、スケジュール管理をすることができる。 【授業内容】			⑨ 11/12	【到達目標】 ・おはなしカフェシミュレーションに参加し、本番までの動きを確認することができる。 【授業内容】 ・オレンジカフェシミュレーションに参加		
② 9/3	【到達目標】 ・実習前試験を実施し、実習に向けての目的と心構えを確認することができる。 【授業内容】			⑩ 11/19	【到達目標】 ・おはなしカフェを実施し、参加者様に満足して頂けるような運営をすることができる。 【授業内容】		
③ 9/17	【到達目標】 ・おはなしカフェシミュレーションに参加し、本番までの動きを確認することができる。 【授業内容】 ・オレンジカフェシミュレーションに参加			⑪ 12/3	【到達目標】 7つの習慣 年間スケジュール確認 【授業内容】		
④ 9/24	【到達目標】 ・おはなしカフェを実施し、参加者様に満足して頂けるような運営をすることができる。 【授業内容】			⑫ 12/10	【到達目標】 ・おはなしカフェシミュレーションに参加し、本番までの動きを確認することができる。 【授業内容】 ・オレンジカフェシミュレーションに参加		
⑤ 10/1	【到達目標】 7つの習慣 年間スケジュール確認 【授業内容】			⑬ 12/17	【到達目標】 ・おはなしカフェを実施し、参加者様に満足して頂けるような運営をすることができる。 【授業内容】		
⑥ 10/15	【到達目標】 ・おはなしカフェシミュレーションに参加し、本番までの動きを確認することができる。 【授業内容】 ・オレンジカフェシミュレーションに参加			⑭ 1/7	【到達目標】 新年明けて、残りのスケジュールを確認することができる。 【授業内容】		
⑦ 10/22	【到達目標】 ・おはなしカフェを実施し、参加者様に満足して頂けるような運営をすることができる。 【授業内容】			⑮ 1/14	【到達目標】 定期試験を実施し、後期を振り返ることで、成長した部分に気付くことができる。 【授業内容】 ・定期試験実施 ・実習に向けて		
⑧ 10/29	【到達目標】 ・中間試験を実施し、第1回目～第7回目まで学んだことを振り返ることができる。 【授業内容】 ・中間試験の実施(1～7回目までの振り返り) ・おはなしカフェについて			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	介護の基本	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田村 仁美
		授業 形態	講義	総単位 時間	60時間	開講 日・時 間	前期 金曜日・3, 4限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
特別養護老人ホーム(ユニット型)において勤務し、利用者の生活支援を中心とした介護業務に従事した。リーダーとして職員指導やチーム運営に関わるとともに、介護支援専門員としてケアマネジメントの実務経験を有する。認知症高齢者が地域で生活を継続するための支援について研究した経験を踏まえ、利用者の尊厳や生活の継続性を重視した支援の視点を授業に反映する。							
【学習内容】							
介護福祉士としての基本理念、役割、倫理、自立支援の考え方を学び、介護を取り巻く社会背景と制度の基礎を理解する。ICFやストレングス、意思決定支援の視点を通して、利用者の生活を多面的に捉える力を養うとともに、生活理解の導入として個別性や生活歴に着目し、実習に向けた観察視点を形成する。							
【到達目標】							
介護福祉士としての基本理念(尊厳・自立)および役割を理解し、具体的な場面で説明できる。倫理的視点に基づき適切な判断ができるとともに、ICFを用いて利用者の生活を多面的に捉え、ストレングスや意思決定支援の考え方を踏まえて支援の方向性を考えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護の役割を自分の言葉で説明できる 【授業内容】 ・オリエンテーション ・DVD視聴(リメンバーミー) ・介護職ができる関わりの考察			9	【到達目標】 法制度を説明できる 【授業内容】 ・介護福祉士法		
2	【到達目標】 介護の成り立ちと社会背景を説明できる 【授業内容】 ・介護の成り立ち ・社会的背景			10	【到達目標】 義務と責任を説明できる 【授業内容】 ・守秘義務 ・責任		
3	【到達目標】 家族介護とサービスの関係を説明できる 【授業内容】 ・家族介護 ・サービスの役割			11	【到達目標】 活動の場を説明できる 【授業内容】 ・施設・在宅		
4	【到達目標】 介護の歴史を説明できる 【授業内容】 ・制度の変遷			12	【到達目標】 専門職の役割を説明できる 【授業内容】 ・役割拡大		
5	【到達目標】 介護の課題を説明できる 【授業内容】 ・現代の課題			13	【到達目標】 専門職団体を説明できる 【授業内容】 ・団体		
6	【到達目標】 理念と尊厳を説明できる 【授業内容】 ・尊厳 ・理念			14	【到達目標】 倫理の基本を説明できる 【授業内容】 ・職業倫理 ・人権		
7	【到達目標】 自立と自己決定を説明できる 【授業内容】 ・自立支援 ・自己決定			15	【到達目標】 定期試験 【授業内容】		
8	【到達目標】 中間試験 【授業内容】 中間試験 事例検討			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	介護の基本	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田村 仁美
		授業 形態	座学	総単位 時間	30時間	開講区 公曜口・時 間	後期 金曜 4限目
学科・コース:介護福祉士科							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
特別養護老人ホーム(ユニット型)において10年間勤務し、利用者の生活支援を中心とした介護業務に従事した。リーダーとして職員指導やチーム運営に関わるとともに、介護支援専門員としてケアマネジメントの実務経験を有する。認知症高齢者が地域で生活を継続するための支援について研究した経験を踏まえ、利用者の尊厳や生活の継続性を重視した支援の視点を授業に反映する。							
【学習内容】							
前期で学んだ理念や自立支援の考え方を基に、生活理解や自立支援、安全管理、地域資源の活用について学ぶ。実習での経験を踏まえ、利用者の生活ニーズや支援の意図を具体的に考察し、知識と実践を結びつける力を養う。事例検討や課題解決を通して、支援の根拠を考える視点を深める。							
【到達目標】							
利用者の生活ニーズや状態を理解し、支援の意図や必要性を説明できる。実習経験を踏まえ、関わりの結果や変化を根拠に基づいて考察できるとともに、安全管理や環境整備の視点を取り入れた支援を考えることができる。また、地域資源や家族支援の視点を理解し説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 ・介護保険制度の目的と全体像を説明できる 【授業内容】 ・介護保険制度の目的 ・制度創設の背景 ・全体構造			9	【到達目標】 ・アセスメントに必要な情報を整理できる 【授業内容】 ・アセスメント(再整理)		
2	【到達目標】 ・保険者・被保険者の仕組みを説明できる 【授業内容】 ・保険者(市町村) ・被保険者(第1号・第2号)			10	【到達目標】 ・課題・ニーズを抽出できる 【授業内容】 ・課題分析 ・ニーズ整理		
3	【到達目標】 ・サービス体系を分類し説明できる 【授業内容】 ・居宅サービス ・施設サービス ・地域密着型サービス			11	【到達目標】 ・介護計画を立案できる 【授業内容】 ・介護計画作成		
4	【到達目標】 ・介護保険利用の流れを説明できる 【授業内容】 ・申請～認定～サービス利用			12	【到達目標】 ・生活支援における環境要因を説明できる 【授業内容】 ・④自立と生活支援(環境・バリアフリー)		
5	【到達目標】 ・ケアマネジメントの役割を説明できる 【授業内容】 ・ケアマネジャーの役割 ・ケアプラン			13	【到達目標】 ・支援の評価と修正を説明できる 【授業内容】 ・評価・見直し		
6	【到達目標】 ・多職種連携の実際を説明できる 【授業内容】 ・多職種連携(再整理)			14	【到達目標】 ・支援内容を一貫して説明できる 【授業内容】 ・総合ケーススタディ		
7	【到達目標】 ・制度と生活支援の関係を説明できる 【授業内容】 ・地域包括ケアシステム ・フォーマル／インフォーマル支援			15	【到達目標】 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間総括 【授業内容】			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席率が70%に満たない場合はF評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	コミュニケーション技術	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高橋 亜希子
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 特別養護老人ホームに併設されている「ディサービス」に勤務したのち、現在は「リハビリテーション病院」で看護助手として従事。 また、「初任者研修」を受講する受講生の授業で「コミュニケーション」を担当。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ○全ての介護の始まりは、「コミュニケーションから始まる」ことを学ぶ為に、実践的な授業を行う。 ○コミュニケーションは、「利用者様」とだけ行おこなうものではなく、自分に関わる全ての人とコミュニケーションが必要ということを理解する							
【到達目標】 常に実践を意識し、「実習」に向けて、利用者様や職員の方たちと円滑なコミュニケーションを図ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 中央法規 介護養成校テキスト コミュニケーション技術				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解することができる。 【授業内容】 なぜ「コミュニケーション」が重要なかを理解するためにグループで考え発表する。			9	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術を理解する。 【授業内容】 「傾聴」と「共感」の技法をグループで行う。		
2	【到達目標】 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解することができる。 【授業内容】 なぜ「コミュニケーション」が重要なかを理解するためにグループで考え発表する。			10	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術を理解する。 【授業内容】 「受容」と「共感」の大切さを理解し、グループで行う。		
3	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションの特徴を理解する。 【授業内容】 介護におけるコミュニケーションの役割をグループで考え発表する。			11	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術を理解する。 【授業内容】 「話を聴く」時の態度をグループで確認する。		
4	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションの特徴を理解する。 【授業内容】 介護におけるコミュニケーションの役割をグループで考え発表する			12	【到達目標】 言語コミュニケーションの機能を理解する。 【授業内容】 「言語的コミュニケーション」とは何か、グループで考え発表する。		
5	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションのかかわりを理解する。 【授業内容】 援助関係を意識した対象者とのコミュニケーションをグループで考え、発表する。			13	【到達目標】 非言語・準言語コミュニケーションを理解する。 【授業内容】 「非言語・準言語コミュニケーション」とは何か、グループで考え発表する。		
6	【到達目標】 介護福祉職の職務とコミュニケーションのかかわりを理解する。 【授業内容】 援助関係を意識した対象者とのコミュニケーションをグループで考え、発表する。			14	【到達目標】 「期末テスト」に向けて授業の振り返り、復習することで理解を深めることができる。 【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りを行う。		
7	【到達目標】 「中間テスト」に向けて振り返り、復習することで理解を深めることができる。 【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りをおこなう			15	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 期末テスト		
8	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	コミュニケーション技術	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高橋 亜希子
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 4限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
特別養護老人ホームに併設されている「ディサービス」に勤務したのち、現在は「リハビリテーション病院」で看護助手として従事。							
また、「初任者研修」を受講する受講生の授業で「コミュニケーション」を担当。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
○全ての介護の始まりは、「コミュニケーションから始まる」ことを学ぶ為に、実践的な授業を行う。							
○コミュニケーションは、「利用者様」とだけ行おこなうものではなく、自分に関わる全ての人とコミュニケーションが必要ということを理解する							
【到達目標】							
常に実践を意識し、「実習」に向けて、利用者様や職員の方たちと円滑なコミュニケーションを図ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
中央法規 介護養成校テキスト コミュニケーション技術							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 目的別のコミュニケーション技術を理解する 【授業内容】 利用者の「意欲」を高めるためのコミュニケーションとは何か？グループで考え発表する。			9	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 うつ病や統合失調症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。		
2	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 聴覚障害・視覚障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			10	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 知的障害・発達障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。		
3	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 構音障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			11	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 高次脳機能障害の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。		
4	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 失語症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			12	【到達目標】 介護におけるチームのコミュニケーションを理解する。 【授業内容】 多職種連携を意識したコミュニケーションとは何か？グループで考え発表する。		
5	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 認知症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			13	【到達目標】 報告・連絡・相談の技術を習得する。 【授業内容】 「報連相」の流れやタ良いイメージとは何か？をグループで考え発表する。		
6	【到達目標】 様々なコミュニケーションの障害がある人への支援を理解する。 【授業内容】 認知症の方のコミュニケーションをグループで考え発表する。			14	【到達目標】 「期末テスト」に向けて振り返り、復習することで理解を深めることができる。 【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りをおこなう。		
7	【到達目標】 「中間テスト」に向けて振り返り、復習することで理解を深めることができる。 【授業内容】 事例検討を行うことで、今までの授業の振り返りをおこなう。			15	【到達目標】 【授業内容】 期末テスト		
8	【到達目標】 【授業内容】 中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	生活援助技術Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	窪田浩之/澤田貴大
	Nursing care skills Ⅱ	授業 形態	演習	総単位 時間	120	開講区分 曜日・時間	前期 月 曜 1・2限/3・4 限
学科・コース							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 介護福祉士として、介護現場での経験と技術及び知識を活かし、根拠ある介護実践が提供できる専門職の育成を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ・基礎的な介護技術習得すると共に講師の現場経験を生かし、実際の介護現場でのリスク管理や応用的な技術を取り入れた授業を行うことで、介護技術を学ぶ楽しさや安全の重要性、ご利用者の気持ちや能力に合わせた介助を提供することの大切さを学ぶ。 ・ただ介助を行うのではなく「なぜ現在の介助方法で行う必要があるのか」というエビデンス(根拠)を示せる介護技術を学ぶ。							
【到達目標】 ・ご利用者ならびに介護者の安全を確保した上で、ご利用者の気持ちに寄り添った介護実践を提供することができる。 ・一つ一つの介助には「なぜ、そのような介助を行うのか」という根拠を明確に説明できる介助を行うことができる。 ・全て介助者が行うのではなく、ご利用者の「できること」を見つけ、それを支援することができる観察力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 講師作成資料、実習室				【授業外における学習】 日常生活の中で、高齢者や障害のある方を見かけた際に自分はどういう支援ができるかを考えることで介助について興味関心を養う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 オリエンテーションと感染予防 生活支援技術Ⅱの授業を受ける上でのルールを理解できる 手洗いの重要性を理解し、正しい手洗いを実践することができる 【授業内容】 オリエンテーション(授業と実習室の使い方) 感染症予防(専門職としての手指衛生方法)			9	【到達目標】 ボディメカニクスを活用した移乗介助 ボディメカニクスを活用し、力を使わない安全な介助方法を身につけることができる。 【授業内容】 ボディメカニクスを活用したベッド⇄車椅子への介助		
2	【到達目標】 シーツ交換 複数名にてシーツを交換することができる 1人でシーツを交換することができる 【授業内容】 複数名でのシーツ交換 1人でシーツ交換			10	【到達目標】 福祉用具を活用した移乗介助 福祉用具を活用し、ご利用者と介護者双方に負担の少ない移乗介助の方法を学ぶ 【授業内容】 福祉用具(スライディングボード、床走行式リフトを活用した移乗介助)		
3	【到達目標】 ベッド上での体位変換と起き上がり ベッド上での体位変換を行うことができる ベッドからの起き上がりの支援と介助を行うことができる 【授業内容】 ベッド上での体位変換の介助 ベッドからの起き上がりの支援と介助			11	【到達目標】 移乗介助復習 事例を基に、ボディメカニクス及び福祉用具を活用した移乗介助を行うことができる 【授業内容】 ボディメカニクスを活用した移乗介助の復習 福祉用具を活用した移乗介助の復習		
4	【到達目標】 自立度の高い人への着替えの介助 自立度の高い人への着替えの支援を行うことができる 麻痺のある人の残存機能を生かした支援を行うことができる 【授業内容】 前開き衣類を使用し着替えの支援 被り衣類を使用し着替えの支援			12	【到達目標】 車椅子体験及び車いすの操作方法 車椅子の操作方法及び車椅子で生活する感覚や気持ちを考えることができる 【授業内容】 車いすの操作方法 車椅子体験と介助		
5	【到達目標】 椅子及びベッドからの立ち上がり杖歩行介助 イス及びベットの立ち上がり際の介助を行うことができる 杖歩行の介助を行うことができる。また杖を使用しての歩行を体験する 【授業内容】 イス及びベッドからの立ち上がり支援と介助 杖を使用した歩行と介助			13	【到達目標】 様々な福祉用具体験 様々な福祉用具の紹介や使い方を学ぶとともに、実際に体験することで、専門職としてご利用者に最適な支援が行えるよう見識を深める 【授業内容】 様々な福祉用具の紹介と体験		
6	【到達目標】 視覚障害のある人への介助 白杖を使用し、視覚障害のある方の世界観を知ると共に視覚障害のある方への移動の介助を行うことができる 【授業内容】 白杖を使用した視覚障害体験 視覚障害のある人への介助			14	【到達目標】 前期9回～前期13回までの復習 9回から13回までの授業内容を振り返り、介助を行なう根拠と適した技術を改めて確認・実践することで専門職としての介護技術を身に付ける 【授業内容】 前期9回～13回までの振り返り		
7	【到達目標】 前期1回～前期6回までの振り返り 6回までの授業を振り返り、事例に対処応用を活かして対応することができる 【授業内容】 6回までの授業で学んだ介護技術を再度実践する			15	【到達目標】 前期定期試験 これまでの授業を振り返り、試験に臨みことができる 【授業内容】 定期試験(実技試験)		
8	【到達目標】 前期中間試験 これまでの授業を振り返り、試験に臨みことができる 【授業内容】 前期中間試験(実技試験)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	生活援助技術Ⅱ Nursing care skills Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	窪田浩之/福留孝一/
		授業 形態	演習	総単位 時間	120	開講区分 曜日・時間	後期 月 曜 1・2限/3・4 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 介護福祉士として、介護現場での経験と技術及び知識を活かし、根拠ある介護実践が提供できる専門職の育成を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) ・基礎的な介護技術を習得すると共に講師の現場経験を生かし、実際の介護現場でのリスク管理や応用的な技術を取り入れた授業を行うことで、介護技術を学ぶ楽しさや安全の重要性、ご利用者の気持ちや能力に合わせた介助を提供することの大切さを学ぶ。 ・ただ介助を行うのではなく「なぜ現在の介助方法で行う必要があるのか」というエビデンス(根拠)を示せる介護技術を学ぶ。							
【到達目標】 ・ご利用者ならびに介護者の安全を確保した上で、ご利用者の気持ちに寄り添った介護実践を提供することができる。 ・一つ一つの介助には「なぜ、そのような介助を行うのか」という根拠を明確に説明できる介助を行うことができる。 ・全て介助者が行うのではなく、ご利用者の「できること」を見つけ、それを支援することができる観察力を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 講師作成資料、実習室				【授業外における学習】 日常生活の中で、高齢者や障害のある方を見かけた際に自分はどういう支援ができるかを考えることで介助について興味関心を養う。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 前期振り返り 前期の授業を振り返り、配慮すべき点や安全の確保などを復習することができる 【授業内容】 ①前期授業の振り返り ②食生活の意義とその人らしい食事支援			9	【到達目標】 トイレ介助とトイレ介助 プライバシーに配慮したトイレ及びポータブルトイレ介助を行なうことができる 【授業内容】 ①トイレ誘導及びトイレ介助 ②排泄支援と尊厳を守る介護排泄支援と尊厳を守る介護		
2	【到達目標】 食事介助 実際に食事介助を行なうことで、介助される側、介助を行なう側のリスクと予防策を学ぶ 【授業内容】 ①食事介助(座った状態及びベッド上での介助) ②住環境整備と安全で暮らしやすい住まいづくり			10	【到達目標】 おむつ交換の介助 ご利用者の羞恥心に配慮しつつ、衛生面や感染症のリスクに注意しながらオムツ交換を行うことができる 【授業内容】 ①おむつ交換 ②災害時における高齢者・障害者支援		
3	【到達目標】 部分清拭及び全身清拭 部分清拭、全身清拭をとおり身体の清潔保持を行うことができる 【授業内容】 ①清拭の介助(部分清拭、全身清拭) ②清潔保持の意義と尊厳を守る支援			11	【到達目標】 ベッド上での着替えの介助 安全及び安楽な姿勢を考慮したベッド上での着脱を行うことができる 【授業内容】 ①寝ている状態での着替え ②応急手当と緊急時対応の基礎知識		
4	【到達目標】 手浴及び足浴介助 手浴、足浴を実際に行い、部分的な入浴とその効果を知る 【授業内容】 ①手浴、足浴の介助 ②衣生活の支援と自立を促す更衣支援			12	【到達目標】 ベッド上にご利用者がいる状態でのシーツ交換 安全及び安楽な姿勢を考慮したベッド上でのシーツ交換を行うことができる 【授業内容】 ①寝ている状態でのシーツ交換 ②睡眠と休息を支える介護		
5	【到達目標】 入浴介助 実際に入浴(洗身、入浴)介助の体験をとおり、介助される側と介助する側の安全面とリスクを知る 【授業内容】 ①個浴を使用した入浴介助寝台浴体験 ②洗濯と衣類管理を通した生活支援			13	【到達目標】 静養が必要な方への介助 ご利用者への最期のケアを意識し、身体の清潔から着替えまでの一連のケアをとおり実践することができる。 【授業内容】 ①浴衣寝巻の介助看取り時の介助(常時静養が必要な方を含む) ②看取り期における介護と家族支援		
6	【到達目標】 校外学習(車いすを使用し屋外での外出介助を学ぶ) 実際に外出を行い、『介助される側』、『介助する側』の注意点を知る 【授業内容】 ①外出介助(氷川神社) ②社会参加と外出支援の意義			14	【到達目標】 後期9回～後期13回までの振り返り 9回～13回までの授業を振り返り、事例に対し応用を活かして対応することができる。 【授業内容】 9回～13回までの振り返り		
7	【到達目標】 後期1回～後期6回までの振り返り 6回までの授業を振り返り、事例に対し応用を活かして対応することができる 【授業内容】 ①1回～6回までの振り返り ②後期前半の振り返りと事例検討			15	【到達目標】 後期定期試験 これまでの授業を振り返り、試験に臨みことができる 【授業内 後期定期試験(技術試験)		
8	【到達目標】 後期中間試験 これまでの授業を振り返り、試験に臨みことができる 【授業内容】 後期中間試験(技術試験)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
	【特記事項】						

科目名 (英)	介護過程 Care Work Process	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神 由美
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前 期 火 曜 3 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など38年の実務経験を活かし現在も現場で支援を継続し行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。							
【到達目標】 ・介護過程の目的、意義を理解することができる。 ・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。 ・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規 ・介護福祉士 受験ワークブック 2026下 中央法規				【授業外における学習】 専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 介護になぜ介護過程が必要なのか、相手を知ることの大切さを理解することができる 【授業内容】 介護過程の意義と目的			9	【到達目標】 ICF の考え方を活用した情報収集の方法を理解し、記載方法を理解することができる 【授業内容】 ICFの活用方法 事例①		
2	【到達目標】 生活状態を知ることに必要な情報収集とは何かを学び、全体像の仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程の全体像			10	【到達目標】 情報収集した内容を整理する方法を理解することができる 【授業内容】 ICFの活用方法 事例②		
3	【到達目標】 生活は現時点だけではなく、過去の生活の上に成立ち、現在の延長線上に未来がある、自分らしく生きる意味を理解できる 【授業内容】 生活支援における介護過程の必要性			11	【到達目標】 アセスメントとは何かを理解し、望む生活を実現するための方法を理解することができる 【授業内容】 アセスメントの視点		
4	【到達目標】 書式の名称や記載内容を確認し理解することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式①			12	【到達目標】 生活像からイメージを描き、アセスメントの視点を整理し関連づける方法を理解することができる 【授業内容】 アセスメントの実際		
5	【到達目標】 書類の種類を整理、理解し実際に記述することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式②			13	【到達目標】 情報収集した内容を整理し記載する方法を理解することができる 【授業内容】 情報の解釈・統合化		
6	【到達目標】 記載情報を確認し共通理解する大切さを理解することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式③			14	【到達目標】 自立、快適、安全の部分にどのような生活課題が生じているのかを検討し理解することができる 【授業内容】 生活課題の明確化		
7	【到達目標】 介護過程の展開を示す4つのプロセス、それぞれの意味を理解することができる 【授業内容】 介護過程の展開			15	【到達目標】 前期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する 【授業内容】 定期試験・前期授業の振り返り		
8	【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	介護過程 Care Work Process	必修 選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神 由美
		授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後 期 火 曜 3限 ・ 4 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など38年の実務経験を活かし現在も現場で継続して支援を行っている。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。							
【到達目標】 ・介護過程の目的、意義を理解することができる。 ・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。 ・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規 ・介護福祉士 受験ワークブック 2026下 中央法規				【授業外における学習】 専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 個別ケアの提供における介護計画の立案方法について学び、記述方法を理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案① 様式1			9	【到達目標】 ケアマネジメントの理念や目的、構成要素について学び、全体像を理解することができる 【授業内容】 介護過程とケアマネジメントの重要性 事例Aさん 様式1		
2	【到達目標】 介護計画における介護目標の必要性和設定方法について理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案② 様式1			10	【到達目標】 個別援助計画はケアプランを受けて、その目標を達成するためにより具体的に専門的な計画を立案する方法を理解することができる 【授業内容】 ケアプランと個別援助計画の関係性 事例Aさん 様式1		
3	【到達目標】 5W1Hについて確認し記述方法を理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案③ 様式1			11	【到達目標】 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解し、連携が必要な他職種について理解することができる 【授業内容】 チームアプローチの意義 事例Aさん 様式2		
4	【到達目標】 介護過程における実施の意義と留意点を理解することができる 【授業内容】 介護の実施 様式2			12	【到達目標】 様々な福祉現場で他職種との連携がどのような場面で必要かを考え、チームアプローチの必要性を理解することができる 【授業内容】 チームアプローチの実践 事例Aさん 様式2		
5	【到達目標】 介護の実践の場において、実践の証明として貴重な業務である記録について理解することができる 【授業内容】 記録の実施 様式2			13	【到達目標】 情報収集やアセスメントを行う際の留意点などを理解することができる 【授業内容】 事例Aさん 様式2 まとめ		
6	【到達目標】 支援することにより生活課題が解決に向かっているのかを確認する方法を理解することができる 【授業内容】 評価の意義と目的 様式2			14	【到達目標】 実習時に作成する書式を再確認し記載方法を理解することができる 【授業内容】 2次実習に向けての確認		
7	【到達目標】 心身状態を観察する方法を理解し、情報を共有する介護チームとの連携の重要性を理解することができる 【授業内容】 介護過程の展開 様式2 事例Aさん			15	【到達目標】 後期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する 【授業内容】 定期試験・後期授業の振り返り		
8	【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト 事例Aさん			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)		Basic nursing care 介護総合演習Ⅰ		必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	千葉 一馬
学科・コース		介護福祉士科		授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分	前期 曜日・時間:木曜 3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)									
介護福祉士としての実務経験と、勤務先での実習指導での経験を活かし、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。									
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)									
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての役割、態度を養う学習とする。									
実習での学びをより深められるように、気づく・伝える力を得られるような、学習、演習を行う。									
【到達目標】									
・介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に繋げることができる。									
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。									
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】				
実習と記録 介護福祉士編 一般社団法人滋慶教育科学研究所 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)					実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。				
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 介護総合演習で何を学び、実習に向けての準備を行う意識を持つ。 介護を学ぶにあたり自身の目標を設定・認識できる。 【授業内容】 授業のオリエンテーション 介護総合演習の位置づけと目的				9	【到達目標】 ①第1実習に向けて準備が出来る。 【学習内容】 事前の施設への連絡などの準備 服装や持ち物など			
2	【到達目標】 想像を膨らませることが出来る。 【授業内容】 介護から連想されるワードを沢山出す。 自分がどういう風に仕事に関わるか将来像をつくる。				10	【到達目標】 ②第1実習に向けて準備が出来る。 【学習内容】 実習の意味について考える 実習生紹介表の完成			
3	【到達目標】 想像を形にすることができる。 【授業内容】 グループ毎に理想の社会を想像して下さい。とテーマを渡して 模造紙やPCを使って一つの町を作ってもらうワーク				11	【到達目標】 ③第1実習に向けて準備が出来る。 【学習内容】 日誌の書き方 目標の立て方			
4	【到達目標】 想像を形にすることができる。 【授業内容】 グループ毎に理想の社会を想像して下さい。とテーマを渡して 模造紙やPCを使って一つの町を作ってもらうワーク				12	【到達目標】 ④第1実習に向けて準備が出来る。 【授業内容】 日誌の書き方 文章の書き方			
5	【到達目標】 利用者について考えることが出来る。 【授業内容】 関わる方々の年代に何があったのか 自分たちが関わる人達の背景を知る。				13	【到達目標】 周りを見て、気づき考えることにするきっかけをつかむ。 【授業内容】 学校周辺を散策。 利用者の視点 介護者の視点に立って、考えてみる。			
6	【到達目標】 介護福祉士の仕事の意味/意義について考える。 【授業内容】 介護とは プロとはというものを考える。 介護の仕事についての認識を深める。				14	【到達目標】 実習日誌を記入することができる。 【授業内容】 前回授業の体験、考えたことを記録にまとめる。			
7	【到達目標】 利用者と関わる職種について学ぶ 【授業内容】 一人の方に対し、どれだけの人が関わるのか調べる。 その中で介護の役割について考える。				15	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 定期試験			
8	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 中間試験				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)				
【特記事項】									

科目名 (英)	Basic nursing care	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	千葉 一馬
	介護総合演習 I	授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分	後期 曜日・時間:木曜 2限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
介護福祉士としての実務経験と、勤務先での実習指導での経験を活かし、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての役割、態度を養う学習とする。							
【到達目標】							
・介護実習の効果を上げる為、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し介護実践に繋げることができる。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
実習と記録 介護福祉士編 一般社団法人滋慶教育科学研究所 新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習(参考図書)				実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。 実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
9月4日	【到達目標】 実習先の情報 学びをまとめることができる。 1【授業内容】 自分で改めて実習先について調べまとめる。			11月27日	【到達目標】 1次実習の振り返りを行うことができる。 9【授業内容】 自身でできたこと、課題をまとめ、2次実習に活かせるようにする。		
9月11日	【到達目標】 実習施設について伝えることができる。 2【授業内容】 学生で相互に実習先についてまとめた内容を伝えあい 学びを深める。 翌週実習1段階			12月4日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 10【授業内容】 実習の意味・目的/実習生紹介表の作成		
9月25日	【到達目標】 実習先の情報 学びをまとめることができる。 3【授業内容】 自分で改めて実習先について調べまとめる。			12月11日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 11【授業内容】 2次実習をイメージする。		
10月2日	【到達目標】 実習施設について伝えることができる。 4【授業内容】 学生で相互に実習先についてまとめた内容を伝えあい 学びを深める。			12月18日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 12【授業内容】 事例検討		
10月9日	【到達目標】 実習での課題を改善することができる。 5【授業内容】 実習で抱える課題を共有し、次回実習に向けた準備を行う。 翌週実習1段階			1月15日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 13【授業内容】 近隣を簡単に散策 利用者の視点 介護職の視点として考える。		
10月23日	【到達目標】 実習先の情報 学びをまとめることができる。 6【授業内容】 自分で改めて実習先について調べまとめる。			1月22日	【到達目標】 第2次実習の準備ができる。 14【授業内容】 前回の体験を記録にまとめたものを、見比べ、自身の成長を実感する。 そのうえで、課題や必要な支援についてグループワークを行う。		
10月30日	【到達目標】 実習施設について伝えることができる。 7【授業内容】 学生で相互に実習先についてまとめた内容を伝えあい 学びを深める。			1月29日	【到達目標】 学びの振り返り 15【授業内容】 定期試験		
11月6日	【到達目標】 学びの振り返り 8【授業内容】 中間試験			【評価について】			
	【特記事項】			筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			

科目名 (英)	発達と老化の理解 Comorehension of growth and aging	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	白井良江
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水 曜 3限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】 大学病院内分秘代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として30年以上の経験を持つ。							
【授業の学習内容】 病院勤務から介護福祉施設まで、医療や介護にかかわる経験をいかし、イラストや写真を見ながら医学的基礎知識を説明する。実体験から、印象に残る話をまじえて伝える。老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、それらに合わせてどのような対応や配慮が必要か、理解を深めてほしい。							
【到達目標】 発達の観点から老化を理解し、その心理と身体機能の変化の基礎的知識を習得する。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験 受験ワークブック 上 発達と老化の理解 介護福祉士国試ナビ				【授業外における学習】 「こころとからだのしくみ」と重複する内容があり、老化の視点からも理解を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の進め方と評価について・発達と老化の理解について学ぶ意義を理解することができる。発達の概念を理解できる。 【授業内容】 オリエンテーション 運動・言葉の発達 原始反射			9	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 老化に伴う機能的な変化 表8 咀嚼機能 消化・吸収機能 泌尿器の機能		
2	【到達目標】 人間の成長と発達の基礎的知識を理解できる。 【授業内容】 身体的・運動・言葉・社会的行動の発達 スキャモンの発達曲線 愛着			10	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 老化に伴う機能的な変化 表8 運動機能 廃用症候群 骨粗鬆症		
3	【到達目標】 コールバーグ、ピアジェ、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論を理解できる。 【授業内容】 発達段階説・発達課題			11	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 老化に伴う機能的な変化 表8 (造血機能 免疫機能) 睡眠 注意機能		
4	【到達目標】 老年期の定義・老化学説について理解できる。 【授業内容】 老年期の定義・老化学説			12	【到達目標】 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活を理解できる。 【授業内容】 記憶のしくみ 知能の分類		
5	【到達目標】 喪失体験・老年期の発達課題について理解できる。 【授業内容】 老性自覚・高齢者の喪失体験・高齢者と健康			13	【到達目標】 高齢者と健康を理解できる。 【授業内容】 ライチャードの5つの性格類型 平均寿命と健康寿命		
6	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 感覚の加齢変化 表9			14	【到達目標】 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活を理解できる。 高齢者と健康を理解できる。 【授業内容】 ふりかえり		
7	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 老化に伴う機能的な変化 表8 (循環器の機能) ふりかえり			15	【到達目標】 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化と生活を理解できる。 高齢者と健康を理解できる。 【授業内容】 定期試験 前期授業ふりかえり		
8	【到達目標】 老化に伴うこころとからだの変化と生活を理解できる。 【授業内容】 中間試験 老化に伴う機能的な変化 表8 (呼吸器系 消化機能)			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Understanding of dementia 認知症の理解	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	渡辺 瞳
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 金 曜 3 限
学科・コース	介護福祉士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 介護福祉士として特別養護老人ホームにて就業し、認知症高齢者のケアに携わってきた。その実務経験を活かし、認知症の方の生活や心理を理解し適切な関わり方について具体的な手な事例を交えながら授業を行う							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 認知症の症状を理解し、その背景にある「その人らしさ」の理解も深められるようにする。 認知症の方の心理や生活の視点を学び、尊厳を大切にしたい支援のあり方について理解する。							
【到達目標】 ・認知症の基本的な症状の特徴について理解できる。 ・認知症の方の尊厳を大切にしたい介護の関わり方を理解できる。 ・介護福祉士として認知症の方とどのように向き合うべきか考える事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規) 介護福祉士養成講座認知症の理解(中央法規)				【授業外における学習】 認知症の症状や介護方法について理解を深める。 日常生活の中で認知症に関する事や社会的課題にも関心と理解を深める。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 授業の目的や進め方を理解し、認知症を学ぶ意義について考える事ができる 【授業内容】 オリエンテーション 認知症とは何か、自分の認知症イメージを言語化する			9	【到達目標】 認知症の人とのコミュニケーションについて理解できる 【授業内容】 認知症ケアにおけるコミュニケーションの工夫		
2	【到達目標】 認知症の定義や特徴について理解できる 【授業内容】 認知症の定義 加齢による物忘れとの違い			10	【到達目標】 認知症の人への生活支援の方法を理解できる 【授業内容】 食事・排泄・入浴などの生活支援		
3	【到達目標】 脳の構造と認知症の関係を理解できる 認知症の主な症状について理解できる 【授業内容】 アルツハイマー型・レビー小体型認知症・血管性認知症など 脳の構造と機能 うつ・せん妄との区別など			11	【到達目標】 認知症の人を支える家族支援について理解できる 【授業内容】 家族の負担 家族への支援		
4	【到達目標】 中核症状を具体的に理解できる 【授業内容】 生活への影響 見当識障害や記憶障害、失語・失行・失認について			12	【到達目標】 認知症ケアにおける多職種連携を理解できる 【授業内容】 チームケア・多職種連携 事例で考える認知症ケア(グループワーク)		
5	【到達目標】 認知症の人の心理や不安について理解できる 【授業内容】 認知症の人の気持ち・生活の中で起こる困難 事例で考える認知症ケア(グループワーク)			13	【到達目標】 地域で支える認知症ケアについて理解できる 【授業内容】 地域包括ケア 認知症施策		
6	【到達目標】 認知症が生活に与える影響について理解できる 【授業内容】 日常生活への影響 生活障害と支援の視点			14	【到達目標】 これまでの学習内容を整理する 【授業内容】 総まとめ・振り返り		
7	【到達目標】 認知症ケアの基本的な考え方を理解できる 【授業内容】 認知症ケアの基本・尊厳を大切にしたい関わり 事例で考えた認知症ケア(グループワーク)			15	【到達目標】 授業内容の理解度を確認する 【授業内容】 総合テスト		
8	【到達目標】 ここまでの学習内容を振り返り理解を深める 【授業内容】 振り返りテスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Comprehension of handicap		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大川空湖	
	障害の理解		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	後 期	
学科・コース	介護福祉士科						曜日・時間	水 曜 4 限	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 障害者支援施設・グループホーム・相談支援センターにおいて、20年間身体障害者・知的障害者・精神障害者の生活支援・相談支援等の実務に携わる。									
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目は、障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基本的な知識を習得する。障害のある人に対する介護や支援を、担当教員の現場経験に基づく実例を通してイメージできるよう配布資料や映像をととして学習する。									
【到達目標】 ・障害の基礎的理解として、障害の概念、障害者福祉の基本理念を理解することができる。 ・障害種別ごとの医学的、心理的側面も踏まえた生活を理解し、障害のある人の生活と、障害特性に応じた支援について理解することができる。 ・障害のある人を取り巻く家族に対する支援のあり方の理解、介護福祉士がチームアプローチを行う上での連携と協働についての理解ができる。									
【使用教科書・教材・参考書】 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2026(中央法規)					【授業外における学習】 障害者支援に関する専門用語が出てくるので、わからない言葉をわからないままにしないよう、自ら言葉の意味を調べる習慣をつけること。				
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 障害の概念について理解できる。 【授業内容】 障害とは何か、障害の種類には何かがあるのか、障害者の法的定義				9	【到達目標】 肢体不自由(脳血管障害)のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 脳血管障害とは、またその後遺症			
2	【到達目標】 障害者福祉の基本理念について理解できる。 【授業内容】 ICIDH・ICF、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン				10	【到達目標】 肢体不自由(脳性麻痺)のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 脳性麻痺の医学的理解(原因、症状)、障害特性に応じた支援。			
3	【到達目標】 視覚障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 視覚障害の医学的理解(視覚機能・視覚障害の種類・原因疾患)心理的理解、生活の理解、障害特性に応じた支援。				11	【到達目標】 知的障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 知的障害とは何か、原因、特徴、障害特性に応じた支援			
4	【到達目標】 聴覚障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 聴覚障害の医学的理解(聴覚障害、耳の構造、難聴の種類)、心理的理解、生活の理解、障害特性に応じた支援。				12	【到達目標】 精神障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 精神障害とは何か、精神障害の分類と主な疾患、障害特性に応じた支援			
5	【到達目標】 言語障害・重複障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 言語障害とは何か、言語障害の種類、生活上の困難について。重複障害の医学的理解、心理面の理解、コミュニケーション方法。				13	【到達目標】 高次脳機能障害のある人の生活について理解できる 【授業内容】 高次脳機能障害とは何か、高次脳機能障害の原因、主要症状、障害特性に応じた支援			
6	【到達目標】 肢体不自由(脊髄損傷)のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 脊髄損傷とは何か、原因、症状、中途障害者の典型的な障害受容過程				14	【到達目標】 発達障害のある人の生活について理解できる。 【授業内容】 発達障害とは何か、発達障害の種類、障害特性に応じた支援			
7	【到達目標】 身体障害がある人の地域生活について理解できる。 【授業内容】 ゲストスピーカー(当事者)による講義、学生との質疑。				15	【到達目標】 これまでの授業の振り返り。わからない問題の洗い出し、自身の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期テスト・解説			
8	【到達目標】 これまでの授業の振り返り。わからない問題の洗い出し、自身の課題を見つけることができる。 【授業内容】 中間テスト・解説				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)				
【特記事項】									

科目名 (英)	こころとからだのしくみ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分	前期
						曜日・時間	火曜日 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
看護教員の時に解剖生理学及び成人看護学・基礎看護学・精神看護学の講義担当							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
看護師として医療療養型病院や診療所及び介護施設や訪問看護での教育経験がある教員が、医療及び介護現場の実際を交えながら、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を理解する授業を行う							
【到達目標】							
- 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 - 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 - 人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験受験ワークブック下2025(中央法規出版) 最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規出版)				授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 健康とは何かを理解できる 生命を維持するしくみを説明できる 【授業内容】 オリエンテーション 「健康」の定義や、その背景、理念、健康観を知る			9	【到達目標】 身じたくの意味を説明できる 眼や口腔、毛髪を清潔に保つしくみを説明できる 【授業内容】 生活の中で行われている身じたくに関する、こころとからだの基本項目について学ぶ。		
2	【到達目標】 脳とこころのしくみ(学習、記憶、感情、意欲、適応の関係)を説明できる 【授業内容】 脳の役割(学習・記憶・感情・意欲・適応の関係)を知る			10	【到達目標】 身じたくに関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 身じたくに関する観察ポイントなどについて説明できる		
3	【到達目標】 脳、神経系の名称とはたらきを説明できる 骨・関節・筋肉の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 脳、神経系のからだの動きのメカニズムを理解する。 骨・関節などからからだの動きのメカニズムを理解する。			11	【到達目標】 消化器の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 消化器のからだの動きのメカニズムを理解する。		
4	【到達目標】 ボディメカニクスについて理解でき説明できる ポジショニングについて説明できる 【授業内容】 人が移動する必要性や移動の効果(姿勢・良肢位・ポジショニング・ボディメカニクス)			12	【到達目標】 食事と栄養とは何か理解できる 食べるしくみ(咀嚼・嚥下)を説明できる 【授業内容】 食事と栄養のしくみについて理解し、摂食嚥下の5期モデルについて理解し、心身の機能低下が食事に影響を及ぼす影響について学ぶ。		
5	【到達目標】 移動の意味、基本的な姿勢や体位保持のしくみを理解できる 座位、立位保持、歩行のしくみを説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める			13	【到達目標】 食事に関する機能の低下、障害の原因や機能の低下、障害が及ぼす食事への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 食事に関する観察ポイントなどについて説明できる		
6	【到達目標】 移動に関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める。(麻痺、骨粗鬆症、神経疾患など)			14	【到達目標】 欲求について説明できる 自己概念、尊厳について説明できる 【授業内容】 人間の心理の中の、基本的欲求、社会的欲求についてを学ぶ。		
7	【到達目標】 ①眼・鼻②爪・毛髪③口腔う・歯・舌の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 感覚器(視覚・聴覚など)のからだの動きのメカニズムを理解する。			15	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説		
8	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							
すべての教科につながる授業です。							

科目名 (英)	こころとからだのしくみ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小林 亜紀
学科・コース	介護福祉士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分	前期
						曜日・時間	火曜日 2限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
看護教員の時に解剖生理学及び成人看護学・基礎看護学・精神看護学の講義担当							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
看護師として医療療養型病院や診療所及び介護施設や訪問看護での教育経験がある教員が、医療及び介護現場の実際を交えながら、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能を生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を理解する授業を行う							
【到達目標】							
・介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。 ・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみおよび機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。 ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
介護福祉士国家試験受験ワークブック下2025(中央法規出版) 最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(中央法規出版)				授業進度計画表に沿って、事前に教科書の予習・復習すること。特に復習をすることで知識が定着する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 健康とは何かを理解できる 生命を維持するしくみを説明できる 【授業内容】 オリエンテーション 「健康」の定義や、その背景、理念、健康観を知る			9	【到達目標】 身じたくの意味を説明できる 眼や口腔、毛髪を清潔に保つしくみを説明できる 【授業内容】 生活の中で行われている身じたくに関する、こころとからだの基本項目について学ぶ。		
2	【到達目標】 脳とこころのしくみ(学習、記憶、感情、意欲、適応の関係)を説明できる 【授業内容】 脳の役割(学習・記憶・感情・意欲・適応の関係)を知る			10	【到達目標】 身じたくに関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 身じたくに関する観察ポイントなどについて説明できる		
3	【到達目標】 脳、神経系の名称とはたらきを説明できる 骨・関節・筋肉の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 脳、神経系のからだの動きのメカニズムを理解する。 骨・関節などからからだの動きのメカニズムを理解する。			11	【到達目標】 消化器の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 消化器のからだの動きのメカニズムを理解する。		
4	【到達目標】 ボディメカニクスについて理解でき説明できる ポジショニングについて説明できる 【授業内容】 人が移動する必要性や移動の効果(姿勢・良肢位・ポジショニング・ボディメカニクス)			12	【到達目標】 食事と栄養とは何か理解できる 食べるしくみ(咀嚼・嚥下)を説明できる 【授業内容】 食事と栄養のしくみについて理解し、摂食嚥下の5期モデルについて理解し、心身の機能低下が食事に影響を及ぼす影響について学ぶ。		
5	【到達目標】 移動の意味、基本的な姿勢や体位保持のしくみを理解できる 座位、立位保持、歩行のしくみを説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める			13	【到達目標】 食事に関する機能の低下、障害の原因や機能の低下、障害が及ぼす食事への影響を説明できる 【授業内容】 機能低下が身じたくに及ぼす影響を説明できる 食事に関する観察ポイントなどについて説明できる		
6	【到達目標】 移動に関連した心身の機能低下の原因などの病的要因を説明できる。機能低下が及ぼす移動への影響を説明できる 【授業内容】 移動のしくみ、心身の機能低下が及ぼす影響、変化の域と対応について理解を深める。(麻痺、骨粗鬆症、神経疾患など)			14	【到達目標】 欲求について説明できる 自己概念、尊厳について説明できる 【授業内容】 人間の心理の中の、基本的欲求、社会的欲求についてを学ぶ。		
7	【到達目標】 ①眼・鼻②爪・毛髪③口腔う・歯・舌の名称とはたらきを説明できる 【授業内容】 感覚器(視覚・聴覚など)のからだの動きのメカニズムを理解する。			15	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説		
8	【到達目標】 授業の振り返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 すべての教科につながる授業です。							

科目名 (英)	Growing up academy グローイングアップアカデミー	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高橋 亜希子
		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日・3限目
学科・コース	介護福祉士科						
【授業の学習内容】 本授業は、地域包括支援センターと連携し、学内自習として学内オレンジカフェ(認知症カフェ)を実施することを目標とし、その企画・運営を行う。 学生自身が内容や運営に必要なものを考え、クラス全員が地域高齢者と交流することで、職業観を高める。 また、教員から教わるだけではなく先輩やクラスメイト同士で学び合い教え合い、協働するとことを学んでほしい。							
【到達目標】 学内認知症カフェの企画・運営を通じて、 ①認知症への理解を深めることができる。②地域包括支援センターの職員の方々とコミュニケーションを図り、地域のニーズのを知ることができる。 ③企画・運営を通じて、実施までのプロセスを体験し、流れを理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる 【内容】 オリエンテーション 委員会の活動,4月・5月			9	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
2	【到達目標】 オレンジカフェを知る 【内容】 2年生から引継ぎをうける			10	【到達目標】 初めてのオレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
3	【到達目標】 オレンジカフェを知る 【内容】 2年生から引継ぎをうける			11	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 グループを決め、計画書を立てる		
4	【到達目標】 クラス運営を考えよう!! 係決め 【内容】 クラス会議 クラス目標について			12	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 グループを決め、計画書を立てる		
5	【到達目標】 オレンジカフェの計画を立てよう!! 【内容】 チーム発表。役割分担			13	【到達目標】 レクリエーションを考えよう!! 【内容】 レクリエーション発表		
6	【到達目標】 オレンジカフェの計画を立てよう!! 【内容】 チーム発表。役割分担			14	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
7	【到達目標】 委員会活動を通じ、クラスの運営を図る 【内容】			15	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 定期テスト		
8	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 定期テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	Growing up academy グローイングアップアカデミー	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	高橋 亜希子
		授業 形態	演習	総単位 時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日・3限目
学科・コース	介護福祉士科						
【授業の学習内容】 本授業は、地域包括支援センターと連携し、学内自習として学内オレンジカフェ(認知症カフェ)を実施することを目標とし、その企画・運営を行う。 学生自身が内容や運営に必要なものを考え、クラス全員が地域高齢者と交流することで、職業観を高める。 また、教員から教わるだけではなく先輩やクラスメイト同士で学び合い教え合い、協働するとことを学んでほしい。							
【到達目標】 学内認知症カフェの企画・運営を通じて、 ①認知症への理解を深めることができる。②地域包括支援センターの職員の方々とコミュニケーションを図り、地域のニーズのを知ることができる。 ③企画・運営を通じて、実施までのプロセスを体験し、流れを理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の流れを知ることができる 【内容】 後期の目標 委員会の活動,			9	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
2	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			10	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る		
3	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番			11	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション		
4	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る			12	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
5	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			13	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番		
6	【到達目標】 オレンジカフェを実施することができる 【内容】 オレンジカフェ本番			14	【到達目標】 事例検討をする 【内容】 実習先での事例を振り返る		
7	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 相手に伝える			15	【到達目標】 半期の振り返り 【内容】 相手に伝える		
8	【到達目標】 本番を想定して、シミュレーションをしチームで考える 【内容】 オレンジカフェシミュレーション			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							